



日野赤十字
武蔵野赤十字病院

No.39

2014年 冬

武蔵野赤十字病院

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL. 0422-32-3111
季刊 情報誌

Eye むさしの



写真 白河村 職員撮影

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります

がん化学療法看護認定看護師



上鶴瀬 麻有

ライフスタイルの変化や、高齢化などにより、「がん」に罹患する方が増加しています。現代において、生涯のうち、男性では2人に1人、女性では3人に1人ががんを罹患するといわれています。

がんの治療は、病状に合わせて、手術療法・化学療法（抗がん剤・内服・点滴）・放射線療法を単独あるいは併用して進められています。また、がんと診断された時点から心身の苦痛を和らげる治療・ケアも併せて行っていきます。

社会情勢や患者さんのニーズの変化により、がん化学療法科が入院から外来へシフトされてきています。そのため、がんを罹患する前と同様の社会生活を営みながら、通院治療をすることが可能な時代となってきました。しかしながら、新しい抗がん剤が増えたと同時に、全身の皮膚症状など、日常生活に支障をきたす副作用に悩まされる患者さんも少なくありません。

がん化学療法看護認定看護師は、患者さんが、抗がん剤治療を「安全に」「苦痛がより少なく」「確実に治療を完遂できるように」、治療開始時のオリエンテーションや、抗がん剤の投与管理、生活指導、治療に関わる社会資源に関する情報提供などを行っております。また、がん治療に伴う外来や病棟スタッフおよび関連職種と連携を図りながら、患者さん一人ひとりの生活を大切にし、通院治療のサポートをさせていただきます。

ブレおばあちゃん教室

日：平成26年1月15日（水）、3月19日（水） 時間：13:00～15:00

場所：母子保健相談室

受講料：お一人 3,000円

講義：「最近の育児について」

- ・赤ちゃんの沐浴、お世話の仕方
- ・実物大の赤ちゃんのお人形を使って沐浴実習を行います。



申込およびお問合せ：産婦人科外来

糖尿病教室

場所：山崎記念講堂 3番館1階

時間：13:00～15:00 受講料：500円

2月1日 (土)	糖尿病と併発 細川 貴顕(消化器科)	糖尿病と皮膚疾患 漆原 一哉(皮膚科)
3月1日 (土)	糖尿病と眼 池上 靖子(眼科)	質疑応答 杉山 徹(内科)

申込およびお問合せ：医療社会事業課（内線 7111） 栄養相談室（内線 5292）

新年のごあいさつ

日本だけでなく世界各地で異常気象や自然災害が多い中ではありますが、経済状況などにはやや明るい兆しが見えており、今後を期待させる新しい年を迎えることができました。当院も地域への責任を果たす高度急性期病院として、今年も努力してまいります。

その一歩として昨年の10月より「外来の完全紹介予約制」を導入させていただきました。

それは、重症な方や緊急を要する方、そして当院の外来でなければならない専門性の高い方の診療をすることがこの地域での当院の役割であると同時に、近隣の医療機関とともに役割を分担しながら地域全体として医療を提供していく、いわゆる地域完結型の医療を目指しております。そのため受診の際に紹介状をお持ちになることが必要になるなどのご不便や様々な御不満もあるとは存じますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

地域医療の拠点病院として、今後もより一層皆様の信頼に応えられるよう、確かな医療を提供して参りたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



院長 丸山 洋



看護部長 若林 裕美

昨年は10月に大きな台風が来て、伊豆大島をはじめ大きな被害があり、心の痛む思いでした。今年は自然災害の無い年にと、願ってやみません。

当院は地域の安心できる医療機関として、近隣の病院と連携して活動をしております。この地域は緑豊かな大変暮らしやすい地域です。私たち看護師は、健康に不安を感じた時にも、病と向き合っていくのしなければならなくなった時にも、この地域で生活し続けていただけるよう、生活者の視点から皆様を支援していきたいと考えております。

当院に就職してくる看護師には、当院が地域医療支援病院であることや地域に根差した活動に力を入れていることを就職先に選んだ理由である、という看護師が数多くいます。地域の役に立ちたいと願っている看護師が多いのです。

心配なことや気がかかったことがありましたら、いつでも気軽に声を掛けていただければ、と思います。本年もよろしくお願い申し上げます。



診療科のご紹介

放射線科

治療の最前線を
めざします

部長 星 卓彦



放射線科は画像診断と放射線治療の二つの部門に大きく分けられ、6名の画像診断担当医と2名の放射線治療医の計8

名で診療を行っています。

実際に様々な放射線機器を扱うのは35名の診療放射線技師でさらに看護師、事務といったスタッフが加わり中央部門として放射線センター業務が動いています。

画像診断では健診のレントゲン写真やバリウムを使った胃透視の検査からCT、放射線ではなく磁気を使ったMRIといった様々な検査が行われます。画像診断医はCT・MRIの画像にどのような異常所見があるのか、主治医に報告書（画像診断レポート）を書くことで、主治医が治療を進めていく上で重要な情報を提供するが主で、直接患者さまと接する部分が少なくなじみが少ないと思います。ただCT・MRIといった検査による画像情報は診療上必要不可欠なことも多く、実際には毎月3000件あまのレポートが主治医のもとに届き各科の診療の一翼を担っています。またカテーテルを使った血管造影による肝臓に対する塞栓化学療法や生命を脅かすような出血に対する緊急止血術、血管以外でも画像誘導下での生検やドレーナージなどインターベンショナル・ラジオロジー（IVR）と呼ばれる放射線診断技術を使った治療応用に多くかかわっています。

放射線治療はがん治療において手術、化学療法とともに三本柱の一つであり、地域がん診療連携拠点病院である当院の重要な部門で、2名の放射線治療専門医ですべて対応しています。これまでも通常の放射線治療に加え、高精度な治療として肺・肝臓の病巣に対しピンポイントで放射線を集中させる定位放射線治療に積極的に取り組んできましたが、6月より新しい放射線治療装置（リニアック）2台での治療が始まりました。汎用機とノリスという高精度治療機2台で、最近マスコミで取り上げられることも多い強度変調放射線治療（IMRT）に対応したものになります。高精度な治療という点でも先端医療機器としての機械に目が行ってしまいがちですが、それを支えるスタッフとして放射線治療専門技師、医学物理士といった資格を持った者もそろっており、安全・安心な治療を心がけていますのでよろしくお願い申し上げます。

